



ほ う さ い
ペットも防災 愛知

みんなで知って、みんなで備える。 ペット同行避難

愛知県では、災害時に飼い主さんとペットと一緒に避難する
「ペット同行避難」を推奨しています。

ペットと一緒に避難できれば、飼い主はためらうことなく行動でき、
救助する側も含めた人命の保護と安全確保につながります。

さらに、ペットが放浪して人に危害を与えたり、地域の生活環境が
悪化するリスクも防げるため、ペット同行避難は欠かせない取り組みです。

ペットを飼われている方には、日頃からの準備を。
飼われていない方には、避難所での理解と協力を。

災害時にペット同行避難を行い、「逃げ遅れゼロ」を実現し、
「災害時にヒトとペットが共生できる愛知」を目指しましょう。



ペット同行避難は、 県民みんなの 防災アクションです。



ペットと一緒に避難することは、飼い主のためだけでなく、地域全体を守るために必要です。
共に支えあうために、ペット同行避難を行いましょう。

なぜ、ペット同行避難が必要なの？



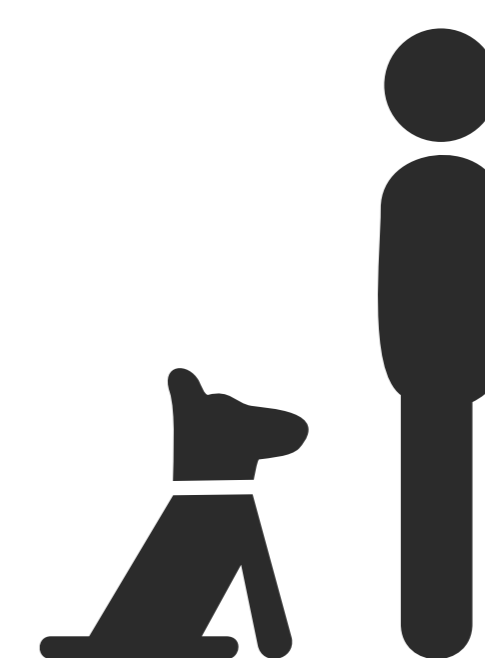
「同行避難」で 迅速に行動

ペットと一緒にならためらいが減り、
住民全体の避難完了が早まります。



「迷子ゼロ」で 衛生と安全を守る

逃げ遅れたペットが放浪動物化すると、
咬傷や衛生悪化の恐れがあります。



秩序を保った 避難生活

ペット同行避難を認め、
適切なルールを設けることで、
秩序ある避難生活が実現します。



飼い主の 心のケア

ペットは飼い主にとって
心を支える大切な家族です。



ヒトとペットの 共生

ペットの命と福祉を守ることは、
倫理的に人の責務です。

災害時、 ペットを守れるのは ゴシュジンだけ。



まずあなたの安全確保を。その上で日頃からしつけ・備蓄・預け先の準備を。
災害時は飼い主同士で支え合い、大切な家族を守りましょう。

「ペットも防災」3つの心得



飼い主の安全が 最優先

飼い主自身が無事でなければ、
ペットを救うことも
お世話を続けることも出来ません。



ペットの災害対策も 飼い主の責任

避難先でペットを
受け入れてもらうためには、
日頃の備えが重要です。



地域の「ペット友」と 助け合う

ペット仲間でお互いを助け合えるよう、
普段から仲の良い関係性作りを。

ペット同行避難の日頃の備え



遊護ルート
をペットと歩く



複数の避難先を
決めておく



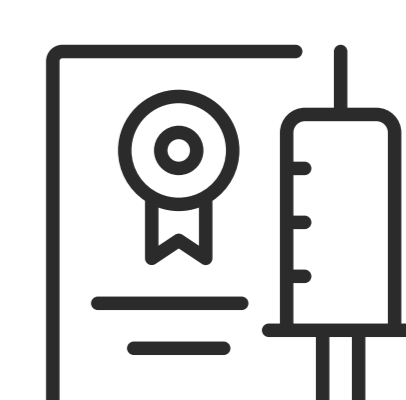
マイクロチップと
迷子札の装着



フード・水は
5日分以上
(できれば30日以上)



ケージ慣れと
基本のしつけ



ワクチンの
接種と記録



ペットを飼っていない皆さまへ

飼い主がペットを連れて避難所へ避難することにご理解ください

過去の災害では、ペットと共に避難所に来ることを避難所で断われ、飼い主が避難所に避難できないことがありました。

日本では約1割の世帯がペットを飼養しています。

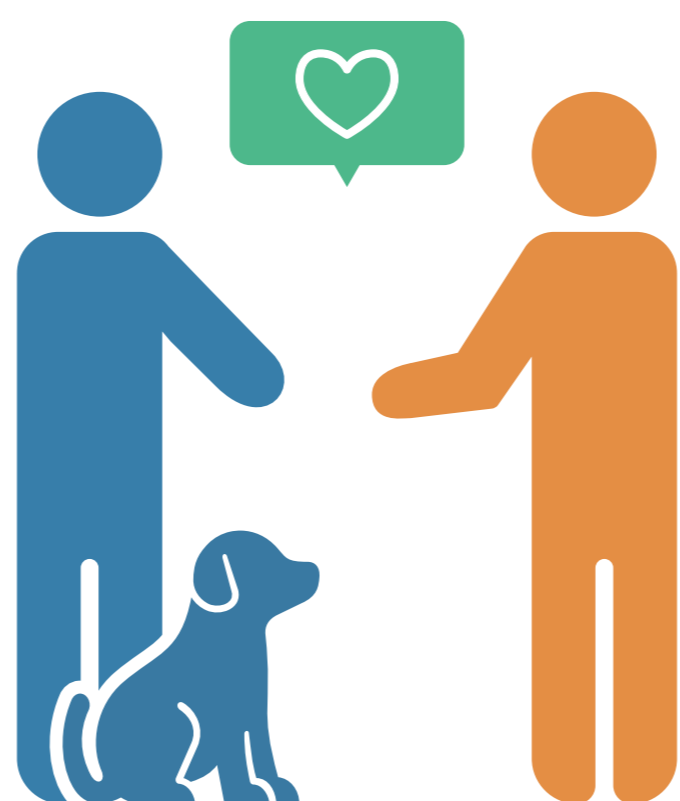
そのため、災害時には皆様が避難される避難所へも、飼い主がペットを連れて避難してくる可能性があります。

災害時の思いやり



相互理解

飼い主にとってペットは家族同然。
ペットの受入は、人の避難の遅れを防ぎ
地域全体の安全につながります。



譲り合いと声かけ

限られたスペースの中で
お互いが安心して過ごせるよう、
思いやりの一言を。



ルールの遵守

良好な生活環境を保った
避難所となるよう、
お互いにルールを理解しましょう。

大変な状況だからこそ、互いに支え合いましょう。

皆さまの温かいご理解とご協力を、よろしくお願いいたします。

一般社団ペットフード協会 令和6年(2024年)全国犬猫飼育実態調査
<https://petfood.or.jp/data-chart/>

